

令和3年度 学校評価報告書 (目標設定) 実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
1 教育課程 学習指導	<p>①自己肯定感を高める学習活動と教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成を実現するための教育課程編成に取り組む。</p> <p>②「わかった・つながってきた・つながった」を生徒が実感できる評価・授業の在り方の再整備を進める。</p>	<p>①主体的・対話的で深い学びの視点から、学びに向かう力の育成につながる授業を実現すべく検討し、共有する。</p> <p>②学校目標で掲げられている資質・能力について学校全体での実践を進める。</p> <p>・ICTを活用した授業実践について共有を図る。</p> <p>③新たな教育課程の編成と実践に向けた取組みを行う。</p>	<p>①学びに向かう力・姿勢の見取り方について各教科内で共有するとともに授業研究会を実施し、全体会で発表する。</p> <p>②自己肯定感の向上や学びに向かう力等の具体的な要素とそれらを見取る手立てへの理解を深め、各教科で実践していく。</p> <p>・ICT器機の活用事例について研修会等を通して研究・実践する。</p> <p>③新学習指導要領へ対応すべく、学校設定科目の設置に向けた検討を行う。</p>	<p>①学びに向かう力・姿勢の育成と見取り方について教員の理解が深まったか。</p> <p>・学習に向かうことができない生徒への指導・支援の方策を共有し、評価につなげられたか。</p> <p>②学校目標で掲げられている資質・能力につながる視点を持った授業を共有できたか。</p> <p>・ICT器機の活用によりすべての教員がICTを活用した授業を行ったか。</p> <p>③新学習指導要領に対応した新たな教育課程の編成ができたか。</p>						
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>①生徒の規範意識を定着させ、社会の一員としての自覚と自己有用感を涵養する。</p> <p>②「かかわる・寄り添う・見守る」教育支援体制により、生徒が自己の課題に気づき、その解決に向けて行動(相談)する力を育む。</p> <p>③学校行事や部活動等を通して、生徒の社会性を育み、豊かな人間関係を構築する力を育む。</p>	<p>①規則やルールを守ることの重要性を伝え、自ら正しい行動選択ができる力を育てる。</p> <p>②生徒が自己の課題に気づき、適切な行動選択ができるよう支援する。</p> <p>③生徒主体の学業環境を整えて、行事の運営をサポートする。</p> <p>④部活動やボランティア活動を生徒が主体的に実施できるように支援する。</p>	<p>①生徒の状況やニーズに応じた集会や講演会を実施する。</p> <p>②相談しやすい体制を整え、生徒に周知するとともに、情報共有を充実させる。</p> <p>③行事の運営にあたり生徒の自主的な活動を促し、教職員が効果的な方法で連携を図る。</p> <p>④活動環境に合わせた内容を模索し、充実した活動が持続できるよう支援する。</p>	<p>①問題行動を20%減少できたか。</p> <p>②課題のある生徒・保護者からの相談割合が高まったか。</p> <p>・不登校生徒が10%程度減少できたか。</p> <p>③生徒会執行部やフロンティアチームが協力し主体的に行事等に携わることができたか。</p> <p>④入部率が25%程度に増やすことができたか。</p>						

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	○社会生活実践力を育成し、主体的に進路設計ができる力を身につけさせる。	①生徒が主体的に将来を考え、個々の能力、関心、適性に合った進路実現を支援する取り組みを進める。 ②社会へつながる生徒を増やすためにキャリア教育実践プログラムの見直しを行う。	①外部の機関等も活用することで、他者理解を深め、自己の勤労観、職業観を具体的に想像できるよう取り組みを行う。 ・生徒一人ひとりの進路希望の実現のため、「総合的な探究の時間」、教科「職業」等の充実を図る。 ②入学初年度の生徒に対応するキャリア教育実践プログラムに関する研究会を開催する。	①説明会や講演会などを適切に時期にふさわしい内容で実施できたか。 ・非正規雇用希望者はいないか。また、進路実績は就職、進学ともに希望者の90%を達成できたか。 ②キャリア教育実践プログラムの検証結果を「進路の手引き」に反映させることができたか。					
4 地域等との協働	①地域や外部の諸機関等との連携を図り、地域とともに学びあう教育活動・学校運営を行う。 ②教科指導等における連携・協働を積極的に推進し、生徒の成長の見守りと学校に対する理解と信頼を深める。	①新型コロナウイルス感染予防の対策を図った上での地域との連携について検討し、地域とつながる教育活動に取り組む。 ②外部の諸団体と連携を図り、教科活動や特別活動の充実を図る。	①生徒の教育活動が地域の方々に具体的にわかるようHP等で情報発信を行う。 ②地域や外部機関の人材を活用した学習活動を展開することにより生徒の成長を促す。	①生徒の教育活動についてHP等で紹介する機会を増やすことで、地域の方々に本校の教育について理解を得られたか。 ②外部の諸団体との連携に取り組むことができたか。					
5 学校管理 学校運営	①生徒の安全と教育環境を確保し、耐震工事への対応と新校舎の効果的な使用方法を策定する。 ②地域と協働した防災体制づくりと防災教育を推進する。 ③事故不祥事防止を推進し、学校に対する信頼を深める。 ④教員のワークライフバランスを推進するとともに生徒と向き合う時間を確保するため組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	①ICT機器をはじめとした施設設備を有効に活用し、快適で安全な学習環境を整備する。 ②地域の防災拠点と連携した訓練を実施し、生徒の防災意識の向上を図る。 ③事故不祥事防止に向けて啓発活動を推進する。 ④Teamsを積極的に活用し、校務の情報共有と効率化を図る。 ・長期休業期間中の学校閉庁日を5日設定する	①生徒の学習効果を上げるためにICT機器をはじめとした設備備品を効果的に配置する。 ②地域と協働した学校防災計画を策定し、計画的に防災避難訓練等を実施する。 ③対生徒・対職員に関する事故防止研修を実施する。 ④掲示板やチャットなどの機能を利用して情報を共有化し、会議時間の節約など、校務を効率化する。 ・長期休業期間中に設定される研修等の日程調整を行い、休暇を取得しやすい環境をつくる。	①ICT機器をはじめとした施設設備を効果的に配置し、生徒の学習効果を上げることができたか。 ②計画的に防災避難訓練等を実施し、地域と協働した学校防災体制づくりができたか。 ③計画的に研修を実施し、事故不祥事防止に係る生徒・職員の意識を高められたか。 ④情報の共有化を進めることにより、会議時間、校務の効率化ができたか。 ・夏季休暇取得を促進できたか。					